

(火)

公明正大な会計

コリントの信徒への手紙Ⅱハ章16～24節

私たちが携わっている豊かな寄付について、人にとやかく言われないようにするためです。私たちは、主の前だけではなく、人の前でも公明正大に振る舞うよう心がけています。(20、21)

パウロがエルサレム教会の飢餓を救うために諸教会に献金を呼びかけていたとき、コリント教会からは、パウロがそれらを「だまし取った」(一二16)という非難の声が上がっていました。それは全く根拠のない中傷でしたが、パウロはそのような疑惑を避けるため、誰の目にも公明正大に見えるように、会計担当者をテトスだけでなく、さらに二人の兄弟を送り出しました(18、22)。複数の者たちが実務を担うことにより、疑いをかけられることのないように配慮したのです。その送り出された兄弟は、「すべての教会で称賛されています」(18)とパウロは保証します。私たちの教会でも、数名の方々が常に複数で会計実務を担つておられます。土曜日や礼拜後、人目のつかない場所で黙々と奉仕しておられる方々に感謝するとともに、その働きがいよいよ祝福されるように祈りたいものです。